

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。議長の登壇のお許しをいただきましたので、ただいまから17番、政和クラブ、吉原武藤の一般質問を始めさせていただきます。（全般モニター使用）

今回、私が通告しておりますのは、1点目に公営住宅の実態について、2点目にタケックス株式会社と佐賀女子高校の廃校について、3点目に一般廃棄物処理施設建設整備事業に伴う取りつけ道路工事発生残土の一部受け入れについてということで、3点を通告いたしております。

では、ただいまから質問に入りたいと思います。

総務省が今年8月7日、住民基本台帳に基づく2012年3月末時点の人口動態調査が公表されました。全国の人口は1億2,665万9,683人で、前年度よりも26万3,727人減少だそうです。3年連続の減少だったそうです。

出生数は4年連続減少で104万9,553人、集計を取り始めた1980年以来、最低だったそうです。死亡者は125万6,125人と最多を更新し、20万6,572人の自然減となったそうです。

佐賀県の人口は85万3,363人で、前年同期と比べまして0.30%、2,605人の減少。このような中で、武雄市の人口の実態はどのようになっているのか、現在、今、武雄市の人口は何名なのか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

武雄市の人口でございますけれども、10月末現在で5万1,136名でございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、5万一千幾らと言われましたけれども、これは私が佐賀県市町村ハンドブックで調べた武雄市の人口状態です。平成18年に合併した当時でございますけれども、5万2,806人、そして、現在が24年、これ3月だったと思いますけれども、5万1,400人というようなことで1,406人の人口減少になっております。また、戸数を見ますと、18年が1万6,540戸、24年は1万7,213戸、プラスの670戸でございます。グラフを見ますと、これが人口ですね。こちらが戸数です。人口は右肩下がり、戸数は右肩上がりということで武雄市の人口は減っておりますけれども、戸数についてはふえているという状況でございます。

最近新築をした人に話を聞いてみましたところ、どうして新築を思いつかれたかということをお聞きしたけれども、消費税が平成26年4月には8%、そして、27年10月には10%というようなことで、平成27年度には現在よりも5%も高くなるというようなことで、思い

切ってこうして新築をしたというようなことでございました。

そこでお尋ねをしますけれども、武雄市が管理をしている市営住宅について、現在、武雄市が市営住宅を管理している戸数は、この間の質問でも答弁ありましたけれども877戸というような説明がありました。そこで、現在、入居率がどのようになっているのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。入居率でございます。市営住宅の入居率、現在のところ満室でございます。なお、県営住宅においても満室ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、満室ということでございますけれども、まだまだ足りないというふうに思います。今、満室ということでございますけれども、部屋を待っている人、入居を待っている人が、この877戸に入居を待っている人、入居待ちというのは何世帯ぐらいあるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

住居の待ち状況でございます。大体、年平均80から90の申し込みがございまして、そのうち入居される方が約3割から4割、したがって、残りの7割から6割の方は入居待ちという状況になっています。なお、この中でも辞退される方がそのうち半数程度おられますので、現在のところ入居待ち状態は26件となっております。

なお、県営住宅につきましては、20件程度の入居待ちがあっているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げたいと思うんですけどね。これね、よくこの議論というのはあるんですよ。何かやっぱり足りないとかね、もっと入れるべきじゃないとか、それは心情的にはわからなくてもないですけども、これつくるに当たっても、あるいは維持運営するに当たっても市民皆さんたちの税金なんですよ。ですので、これね、余りこの議論というのは適切じゃなくて、なおかつ、これに関して言うと、民業圧迫という面もあります。もちろん、衣食住というのは基本的には、それは自分たちのものをやらなきゃいけない。ただし、最低限の生活を行う

上で、公営住宅法等の——これ、憲法にもかかわる話なんですがね、補償できない場合について、あるいは戦後の住宅不足のときに対して、これはできた制度であって、かなり今はもうそごが起きているわけです。ですので、逆に伺いたいですけれども、であるとするならば、どういった水準が適切なのか、お考えなのか、吉原先生にお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

私、この住宅というのは、武雄市民の要するに住居を持たない人は安い家賃で入居できるようところが、私は公益の住宅だと思います。

そのようなことで、適正な武雄市の5万1,000人の人口に対して、何戸が適正なのかというのを後で聞こうと思っておりましたけれども、今、この質問が何とかおかしいというような市長の答弁でございますけれども、私はおかしくないと思います。また後だっても質問をしますけれども、そのようなことで私は質問をしているわけです。もちろん、あっちこっち数カ所の市営住宅にも行って、直接入居者の話も聞きました、要望も聞きました、ありがたいとも言われました。そのようなことで、私はこの質問をしているわけです。ですから、確かに公営住宅ですから、市民の税金で賄うわけです。

ですからね、私がここで多いとか少ないとかっては言っていないわけです。そのようなことで、私はそういうことで質問をしております。

〔市長「足りないとおっしゃったじゃないですか」〕

何ですか。

〔市長「足りないとおっしゃったじゃないですか、足りない」と〕

いや、私は足りないとは言っておりません。

〔市長「おっしゃったでしょう」〕

入居率が幾らですか、退去待ちが幾らですかというのを聞いたわけです。これがおかしいですかね。

先に進めます。これは、先ほど部長のほうからの答弁もありましたけれども、これは公営住宅の武雄市内にあります県営住宅です。中野にありますのが、この54戸ですね。武雄市には富岡の山下団地が48戸、富岡団地が40戸、中野が54戸というようなことで、これだけ県営住宅があるわけでございますけれども、ほぼ満杯だということでございます。

そこで、県営住宅も満杯でございますけれども、武雄市には住宅ストック計画というのが実施をされていると思いますけれども、今、和田住宅の第1期工事が済んだと思います。この後の状況というのはどのようになっているのか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

和田住宅に関しましては、第1期棟が本年8月に完成しております、28戸でございます。その後、2号棟の建設を予定しております、現在、建設予定地の旧住宅を解体中でございます。2号棟建設につきましては、請負契約締結について、本議会に議案を提出しているところでございます。可決いただきますと、年明けから本格的に建設工事に着手する予定でございます。

なお、この2号棟の最終完成につきましては、26年1月を予定しているところでございます。

さらに、次の予定はどうなっているかということでございますが、この後、事務事業計画においては、大野住宅を予定しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、このスライドが出ておりますけれども、これは和田住宅の1期工事、これ私、見に行きましたけれども、28戸のすばらしい住宅です。この真ん中にはエレベーターがついて、武雄市の市営住宅では初めてのエレベーター設置じゃなかろうかということでございます。そして、私、駐車場を1回見て回りましたが、この28戸の住宅に54台の駐車スペースがありました。すると、やはり各1戸に2台近くの車がとめられるのではないかなというふうに、やっぱりこれからの住宅需要というのは、このように変わってきたのかなというふうに思ったところです。

このようなことで、今、平成26年1月には第2期工事が完成だということでございますけれども、この第2期工事には、50戸の住宅と思っておりますけれども、駐車スペースについてはどのようにお考えなのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

第2棟の駐車場の件でございます。ちょっと把握しておりません。しかし、第1棟の考え方に基きますと、約2台、1世帯2台程度というふうなことじゃないかというふうに考えております。後だって正式な数字は申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

やはりこれからの住宅はこれぐらいなからんという、なかなか。私の出身が朝日ですので、中野住宅とか、小原住宅とかよく行きますけれども、とにかく駐車スペースがなくて、

市道にとめたり、中の管理道路にとめたりで救急車が入れんとかんたか苦情もよく言われますので、ひとつこれからはそういうふうな方向性でお願いをしたいというふうに思います。次に移ります。

これは、公営住宅の実態についてというようなことで、これは雇用促進住宅です。これは、第85号、24年10月1日発行の中野区民だよりから引用をさせていただきました。中野区については、このようにすばらしい区民だよりを出していらっしやいます、毎月。これが10月号、これが11月号です。このようなすばらしい区民だよりが発行をされております。その10月号の区民だよりの中に、このように書いてあります。「平成4年5月、雇用促進事業団の住宅として建設され、2棟80世帯分を満たす盛況でしたが、雇用状況の変遷により居住者が減少。平成20年ごろから激変をし、ついに40世帯を割った。住民サイドからは空き家ばかりで怖くて恐ろしい、いつ追い出されるのか不安の声が。ことしは毎年実施をしていた住民親睦会の「サンコまつり」も中止。この住宅を市が所有して、入居者をふやす等の方法はないものか。現入居者は求めている。区としても、中野の世帯数は減るし、善後策を市に求めている。すばらしい環境の中にある区民がふえて、明るい生活が復活することを望んでいます」と区民だよりに書いてあります。

そのようなことで、ここに書いてありますけれども、平成18年には68戸、19年4月には67戸、20年4月には56戸、21年4月には53戸、22年4月には51戸、23年4月には46戸、24年4月には43戸ということで、もう50%を割って四十数%に今入居率がなっているわけですね。

そのようなことで、非常に私も行って入居者から話を聞きましたけれども、やはりもう空き部屋はハトのすみかです怖いというようなことでございまして、これがどうにかならないものかということなんですね。きのうの23番議員さんの答弁にだっと思えますけれども、雇用促進住宅は武雄市が買い受けをするというふうな市長の答弁をちょっと聞き取ったと思います。

この問題については、平成21年と22年もこの一般質問で質問がありましたけれども、そのときも当時の山田政策部理事が、武雄市は5,400万円で買うと言っているけれども、その後、何の音沙汰もないというようなことでございました。これは、雇用促進住宅について、私がなぜこんなに入居率が悪いかというようなことを私なりに検証を試みました。すると、ここに入居申し込み御案内というのがあります。これは財団法人雇用振興協会九州支社というところが出しているわけでございますけれども、これは労働省の委託会社です。そこで、これにはこういうものが書いてあります。

雇用促進住宅とは、「独立行政法人雇用・能力開発機構が設置をし、公共職業安定所の紹介等により就職する方、配置転換又は出向等により転勤する方で、通勤圏外のため住居の移転を余儀なくされている等の事情により、住宅の確保を図ること」というようなことが、もろもろが書いてあります。そして、この下ですけれども、「ご案内しています雇用促進住宅

は、平成33年度までに譲渡・廃止されることが閣議決定されております。入居された雇用促進住宅が、入居後に廃止対象住宅に決定された場合は、再契約は行わず、定期貸与契約の契約期間満了により、退去をお願いすることになりますので、予めご理解願います。」というように、こういう制約があるわけです。この33年という閣議決定がされたとか、これが平成19年から、この申し込みの案内のこの申し込み要項には、これをはっきり書いてあるわけですね、33年度までなんだよということで。ですから、もうなかなか入居されないというようなこと、そして、入居の要件とあります。原則として、雇用保険の被保険者ということですが、雇用保険を持つとかんばいかん。貸与の要件とありますけれども、ここには公共職業安定所の紹介等で就職することに伴い住居を移転される方、それに転勤等により住居の移転を余儀なくされ住宅に困窮している方、その他職業の安定を図るために住宅の確保を図ることが必要な方というのがある。そして、入居できない方は、自営業の方及び事業主、または役員を含む。そして、求職の方で離職後6カ月を超え、公共職業安定所において求職者登録していない方。ですから、職業安定所の紹介がなかったら絶対入れんというような制約があるものですから、なかなか入れない。

そして、貸与契約の期間とありますけれども、契約期間は2年と定めてあります。2年、2年の更新なんですね。ですから、職業安定所の紹介が2年置きにずっと紹介がなかったら入居できない。

そして、もう1つ大きなところが家賃です。入居後2年未満、家賃1、そして、入居後3年から4年は家賃が2、2回目入居後、5年目からは基本の1.4倍になるんです。次、そして、中野の雇用促進住宅は幾らかというと、家賃の第1というのが2万9,700円です。そして、大方これが2年過ぎたら1.2倍ですから3万5,600円になります。そして、5年目になりますと4万1,600円になるんですね。このようなことで、普通だったら就職していない、要するに求職中ですから所得がありません。そして、これは右肩上がりに家賃がふえていくような状態になっているわけですね。このようなことから、やはり入居する人が少ないんじゃないかなろうかということでした。

そこで、入居者に聞いてみたら、武雄市で買い取るということでしたけれども、どうなっているんでしょうかと、ぜひ武雄市で買い取って、そして、武雄の中野住宅とかほかの住宅並みに家賃を、その条件をしてもらえないだろうかというような要望等がありました。

このようなことで、武雄市としてどのように5,400万円だったと思いますけれども、買い取りをするという答弁がございました。それから、雇用促進住宅も何か音沙汰がないというようにおりましたけれども、その後の状況というのはどのようになっているんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

質問者のほうに事実誤認がございますので、私のほうからは正確に申し上げたいと思います。

ことしの6月の議会において、一般質問の中において答弁を市長が申し上げております。買い取るという方向性については申し上げております。ただし、諸条件を整えた上で購入をすると申し上げております。その諸条件ということは何かと申しますと、5,000万円は高過ぎる、エレベーターがない、しかも新築と違って、やっぱりがたのきとうですもんねというふうな形で答弁をいたしております。

私どもは、数字を上げて前理事の時代から交渉はしておりません。5,400万円という数字は向こうのほうからの申し出の数字でありまして、先ほど申しましたように、市長は5,000万円というのは高過ぎるというふうに申し上げております。そういう条件面について折り合いがついておりませんので、ただいま交渉中ということでもあります。

それから、2点目、じゃ交渉が進まない理由ということでございます。

実は、東北大震災がありまして、避難者の入居施設として雇用促進住宅も対象になっております。こういうことから、24年7月19日付で独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構のほうから文書が来ておりますが、継続して、応急仮設住宅としての適用を継続するという文書がことしも来ております。こういう状況でございますので、私どものサイドではなくて、向こうのサイドの都合でなかなかその動きをしづらい環境に現時点ではあるという状況をぜひ御理解いただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、やっぱり税金をどういうふうにするかという問題だと思うんです。同じ5,000万円のときに、これは黒岩議員さんを中心として、国保の一般会計の繰り入れという額と、今回の買い入れの額というのは、ほぼイコールなんですよね。そのときに、市民の皆さんたちから見て、同じ5,000万円を投入するときにどちらのほうが適切なのか、何が適切なのかと考えた場合に、やはりこの5,000万円というのは、正確には5,400万円ですが、それはやっぱり高過ぎますよ、あんなぼろ屋敷に。ですので、これはやっぱり国が、あるいはこれは独立行政法人になろうかと思っておりますけれども、ほとんど無償で我々のほうに貸与すべきなんですよ、もうお渡しすべきなんですよ。かつ、もし我々に渡すということであれば、5,000万円でもきちんとエレベーターがついて、ちゃんと天井等の修理があつて、僕も何回か中に入ったことあります、知人がいましたので入ったことありますけれども、あれで5,000万円だったら、恐らく私ね、今も受けましたけど、また住民監査請求とか、また何かリコールとか、もう場

合によっては、これ住民訴訟、この恐怖があるんですよ。ですので、私は5,000万円では絶対に買いません。

これね、私が意を受けて議会に提出したにしても、この5,400万円っていったら議会で否決されますよ。それほど、この5,000万円というのは多額だし、もっとこれは、普通だったら、例えば、黒岩幸生議員さんだったら、この件については話していませんけれども、それやったら国保に入れたほうがいいじゃないかっていうことをおっしゃると思いますよ。ですので、勝手なことと言って申しわけないんですが、そういうふうにはやっぱり、私はこの5,000万円というのは高過ぎだとは思っています。

今後なんですけれども、きのう黒岩議員さんにお答えしましたけれども、あるいは山口良広さんにもお答えしましたけれども、もし活用するとするならば、先ほど議員が御指摘のあったように、そこに住んでおられる方の家賃を市営住宅並みに下げるというのは絶対にあってはいけないと思います。これはあくまでも市営住宅に入られる方というのは、なかなか払うに払えないという方々が中心ですので、それを勤労世帯の方々と同じというのは、もう全く考えておりません。ですが、一方で、例えば、起業家に入っていただくとか、さまざまな形で武雄市を応援してくださる方を幅広くしていこう。名前は上げませんが、ある企業さんにおかれては、しょっちゅうしょっちゅう若木の工業団地にある企業なんですけどね、来られるときに、なかなか泊まる場所がないときがあると、要するに土日は、ここも観光地ですので、泊まる場所がないので、ぜひ雇用促進住宅を若木の工業団地に近いので、そこをあけてくれないかという要請もあります。しかし、今の雇用促進住宅のままでは法の壁でできませんけれども、市が一旦これを受け入れるということになると、そういった幅広い使い方もできようかと思います。

そういった意味で、我々とすれば、そこについてはやっぱりここは十分な議論が必要だと思っておりますので、ぜひ、そこは御理解をさせていただければありがたいと、このように考えております。

私は5,000万円で買うと言ったことは一切ありませんので、そこも御理解いただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

私は、21年と22年の議事録をここに、手元にありますけれども、そのときには5,400万円というようなことが出ております。これは、どっちにしても相手があることですから、私もこの機構に行ってお話を聞かせていただきましたけれども、佐賀県にちょうど、21年のときの一般質問では、ここに雇用促進住宅の一覧表がありますけれども、佐賀県に14カ所ありました、今は10カ所しかありません。それで4カ所は、要するに自治体に譲渡になったとこ

ろもあります。もう廃棄になったところもあります。

そのようなことで、それからやっぱり話が進んでいないんですね。そして今、やっと話が進みつつあるのは、この鹿島の古枝、これが鹿島市が買い取るというようなことで機構から話を聞きましたので、鹿島市役所に電話をしてみました。すると、どうもやはり今、市長の答弁を聞いておりましたところ、どうも武雄市と同じような問題じゃなかろうかと、買うとは言ったけれども、恐らく値段の交渉だと。8,200万円を24年度の当初予算で組んだけれども、まだ先には話は進んでおりませんということでしたから、恐らく武雄市とも同じような、要するに値段の交渉で行き詰まっているんじゃないかなというふうに思うところです。

それと、どうもこの問題についてはちょっと私も不思議、何でこういうふうな入居の条件が厳しいのかなということでも事業団に行って聞いてみました、雇用促進協会に聞いてみました。これは、雇用促進住宅譲渡・廃止業務相談員、これは財団法人雇用振興協会九州支社のいわゆる雇用促進住宅譲渡・廃止業務担当相談員さんから話を聞いたところです。これは、こういうことだったです。

この雇用促進住宅は国のエネルギー政策でつくられたと。というのは、石炭から石油エネルギーの政策転換から炭鉱の閉山によって離職を余儀なくされた方々の再就職のために、全国に1,500カ所建設されたと説明を受けました。武雄市でも平成18年に合併しましたが、旧北方町においては大手の炭鉱が2鉱ありました。杵島北方炭鉱が昭和39年に、また明治炭業の西杵炭鉱が昭和47年に閉山になっております。このようなことから、住居移転を余儀なくされた方々の住宅を確保し、再就職のための雇用促進住宅と理解をいたしました。炭鉱閉山から、もう約半世紀になろうとしております。半世紀の50年の歴史が、この平成33年の譲渡廃止に政府の閣議決定がなされたのだらうというふうに私なりの理解です。

このようなことから、やはり2年刻み、契約が2年というのがそこら辺を再就職のための、離職者らが早く就職をするための仮の住宅だったのだなというふうに思うわけでございますので、やはり国の政策でしたんだから、自治体にももっと安く、今、市長おっしゃいましたけれども、無償でやってもいいんじゃないかなというふうな気がしているところです。

そこで、仮に武雄市がいただいたということになれば、私はこの住宅にも幾ら5階建てで、もちろんエレベーターが、私も21年のときにはエレベーターは必ず必要ですよと言いました。まず、この雇用促進住宅、エレベーターなしの5階建てです。武雄市にも5階建ての住宅があると思います。北方の西杵住宅ですね、5階建て、これも恐らく入居率は100%だろうと思います。私も西杵住宅に足を運んでみました。すると、やはり5階まで上って見たら大変きついです。きついですけれども、やはり入居者はあると。ですから、この中野にあります雇用促進住宅は、まだ築20年でございますから、確かに20年前の建築様式と今とはちょっと違うと思いますけれども、まだすばらしい住宅と私は思います。

きのうの朝、私は朝5時半に起きて雇用促進住宅に行ってきました。そして、駐車場を一

巡ってみました。入居者は今いう39世帯でありますけれども、車は65台とまっていました。それでもまだ駐車スペースは十分あります。恐らくこの住宅も1戸に2台平均ぐらいはとめられるようなスペースもあります。そして、立地条件も高速道路武雄北方インターまでも5分ぐらいしかかかりません。武雄市街にも五、六分で行きます。そして、北方の宮裾には武雄の新しい工業団地も造成されております。そのようなことで、ここはやはり武雄として地理的にも交通的にもすばらしい、いいところじゃないかということでございますので、ぜひ前向きに検討をしていただきたいということでございまして、この問題はこれで終わって、次の問題に移りたいと思います。

次に、タケックス株式会社と佐賀女子高校廃校についてでございます。

まず、朝日町中野にあります雇用促進住宅のすぐ県道武雄中野線を挟んで向かいにありますのがタケックス株式会社でございます。1970年、昭和45年に当時、武雄トアとして武雄市の誘致企業の第1号として創業が開始され、43年間にわたり当地朝日町中野地区で業績を伸ばしてこられた優良企業であります。このたび、若木工業団地に新工場を移転され、そして、今年の9月6日に武雄市と進出協定が結ばれて、来年5月から操業が開始されるそうでございます。

若木町の工業団地は1990年、平成2年に分譲が始められ、22年間で完売をいたしたところでございます。朝日町に1968年、昭和43年に佐賀女子高等学校武雄校舎が開校になり、2年後の1970年、いわゆる45年にタケックスが武雄トアとして、武雄に誘致第1号として進出をされました。また、その2年後、1972年、昭和47年には武雄立石電機が川上地区に誘致になりました。

このような中で、今回、タケックス株式会社さんの工場跡地、そしてまた、女子高校の廃校の跡地でございますけれども、この後の問題についてはどのような支援を考えられているのか。民間の企業、また学校法人のことでございますから、行政として立ち入りはできないかもわかりません。跡地利用等について、何か市として情報等をお持ちであるか、どのような情報なのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

タケックス様につきましては、移転後のもとの工場の跡地の件でございますけれども、当面の間は現状のまま保有し、賃借の希望があれば応じる意向ということでお聞きをいたしております。

それから、女子高様につきましては、現在の敷地については売却の意向というふう聞いております。朝日町とされましては、地元としましては非常に心配という向きもあろうかと思っておりますけれども、タケックスさんは拡大発展ということでございますので、雇用の拡大と

いうことも予定されております。そういうことでございますので、私どもとしては非常に御同慶の至りというふうに思っております。

そういうことでございますので、市としましては積極的な情報の収集あるいは御希望を聞きながら情報の提供、こういうことを支援してまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

先ほども言いましたけれども、民間の企業と学校法人のことですからね、行政がいろいろ言うことはできませんけれども、やはり——確かにタケックスさんは若木に進出をされ、企業を拡大されたわけですから、非常に喜ばしいことです。しかし、やはり中野地区につきましては寂しい思いだと、これまで一緒にいろいろなまちの事業もしてきたというようなことで大変残念だなど。それと輪をかけて今言う雇用促進住宅があったものですから、ほんの近くに、県道を挟んだだけでタケックスさんが1万1,000平米ぐらいあるんですかね。雇用促進住宅も9,000から1万平米ぐらいあります。これがあきでもしたら大変なことだということで、いわゆるこの区民だよりの中でもこういうふう書いてあるわけです。

この区民だよりにもタケックスが移転、来年3月、4月ごろというようなことで、区民だよりにも載せてあります。非常に、やはり危惧をされています。そして、特にこの中野部落というのは、今144戸ありますけれども、約半数は市営住宅と県営住宅と、そして、雇用促進住宅なんですね。そのようなことから、非常に危惧をされておりますので、どうかこの跡地についてはいい方向に向かうようにひとつ希望をすることでございます。

では、次の問題に移りたいと思います。

次に、一般廃棄物処理施設整備事業に伴う取りつけ道路工事発生残土の一部を受け入れる事業でございますけれども、この問題については、本来ならば杵藤地区広域市町村圏組合の議会で質問をするのが本当ではありますけれども、私はその議員ではございません。そしてまた、この杵藤クリーンセンターは私の地元にあります。そのようなことで、ここで質問をさせていただきます。

この発生残土の受け入れは、佐賀県西部広域環境組合の取りつけ道路工事に伴う残土を杵藤クリーンセンターの埋立処分地に最終覆土として活用できると判断をしたとなっておりますが、この杵藤クリーンセンターは西部広域環境組合の処理施設が完成をし、操業を廃止した後の覆土事業と思いますが、なぜ今の時期なのかというのをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと僕、疑問に思うのが、一般質問なんでね、これは議員さんの自由な権利だと思

ます。基本的に私も、もう通告を無視される方もいらっしゃるし、いろんなことで幅広くお答えをしています。ですので、極力通告にないものについて、私たちが恣意的に答えないというのは基本的にはなかったんですよ。ただし、この件でいうと、質問されるのは御自由なんですけど、杵藤広域圏の予算でさまざまなことをこれは行っているわけですよ。といったときに、私はこれ、ここの場の者としては武雄市長でしかすぎないんですよ。武雄市議会に杵藤広域圏管理者の立場で答えるというのは、基本的にはあり得ません。あくまでも武雄市長ということで答えたときに、これは私の思いは自由にしゃべれますけれども、これは権限関係を言った場合に、この場で議事録も残ります。何で武雄市長が武雄市議会の場でこれを答えるんだということになるんですよ。

ですので、この件はやっぱりあなたが議員じゃないかどうかというのは別にしても、これは余り関係ない話で、杵藤広域圏の議会で僕は議論すべきだと思います。ですので、これ答えても権限がない人が、これを本当に答えられるのかということでもありますので、これは別に質問権を全然封じるわけじゃないですよ。封じるわけじゃないんですけども、僕は、この質問については、私の政治姿勢とかそういうのは別ですよ、それはもう幾らでも批判もいただいて全然構わないんですけども、広域圏の管理者として、広域圏の職員として、ここの人もいませんから、ですので、これはちょっとふさわしくないんじゃないかなということは思います。

もとより、広域圏の議会については、これも議事録も残し、公開の場ですので、それこそ何か同僚の議員さんもいらっしゃると思いますし、お友達の議員さんもいらっしゃると思いますので、その場でやっぱり論戦を僕は戦わせるべきだと思います。議員が広域圏の議員じゃないからといって、ここで質問をするというのは僕は筋違いだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

ですから、私は一番初めに断ったんですね。私は、市民の皆さんから負託を受けて、この場におります。そして、私は出身が朝日町の川上です。そして、私の家から約1.3キロぐらいのところに杵藤クリーンセンターはあります。

そのようなことで、なぜ私が心配をするかというのは、私は川上区の役員もしておりますから、この書類が、仕様書が来たときも、その会議にも私も入って賛成の立場で説明をさせていただきました。やはりその会議の中には、今私が聞いた、なぜ今なんだと、27年以降やろうもんっていうのもありました。しかし、経費の問題、その問題とか——何ですか、首振って。県西部の組合も私たちの税金で賄っているわけですから、その費用も少しでも少ないほうがいいわけです。ですから、その区の会議のときに、こういうふうな状況で、そして、すばらしい山を削ったばかりの更地の泥が来るんだからいいでしょうということで私も説明

したところ です。

ですからね、私は、これを持って来るにどうのこうのじゃないわけです。ただ、私が平成9年の一般質問で、ここでしましたけれども、そのことの要するに地下水に漏水事故があったわけですね。その問題が私は頭に抜かっているわけです。ですから、そういうふうな事故がないように万全な体制でしていただきたいということで、この場をかりて質問しているわけです。それはもう私も十二分、十三分わかっております、120%わかっております、この場じゃないというのは。しかし、私は私なりに地域の人を守る義務があります。ここにも杵藤地区のクリーンセンターの問題のこれ資料です。平成8年からの資料です。当時の写真もここにちゃんとまだ残っております。こんなしとつとやということもあります。こういうことがないように、私はこの場で質問をしているわけです。

ですから、ここに仕様書もあります。2万3,700立米をクリーンセンターに持ち込む。クリーンセンターの最終処分場、18万8,000立米の容量があります。まだ十分、そのスペースはありますけれども、確かに今私が言ったとおり、持って来るのはいいんです、きれいな土ですから。ただ、私が言った、今ここにありますが安全管理、搬入中、作業中及び交通ルールの遵守とか、現場の管理、敷きならし、成形仕上げ及び重機の管理、搬入の報告、写真、図面とか、もろもろあります。私は現場の管理を十分にしていきたい。

ですから、もうここには誰も恐らく答える人はいないと思いますから。そして、一般事項として、地元住民の安全・安心の確保、杵藤クリーンセンター出入り口の清掃、ごみ搬入車両への配慮、杵藤クリーンセンターの休日の対応というようなことでうたってあります。そして、ここには——いや、もうここは言いません。

杵藤クリーンセンターには、大体1日に一般廃棄物を運んでいる車が100台近くあります。毎日100台ぐらい来ています。往復ですから200台なんです。ですから、この2万3,700立米、ここに事業期間というのは、着工は入れてありません。ただ、竣工は25年3月ということで、この2万3,700立米をトラックに換算しますと、大体10トン車に5.5立米ぐらい乗るらしいです。それで、4,300台ぐらいのダンプが必要になります。これが3カ月、90日で計算をしますと、1日47台ぐらい、これが恐らく12月からは入らんということになれば、それで、途中雨とかなんとも考えますと、約60日ぐらいじゃなかろうかということで、1日七十一、二台来るようになるわけですね。

ですから、あそこのクリーンセンターの国道498号線の交通状況を見ましても、物すごく多い車です。ですから、ここにありますが、クリーンセンター、地元住民の安全・安心の確保というのがありますけれども、ここら辺を十分徹底していただきたい。そして、安全管理も十分注意をしていただいて、残土受け入れを行っていただきたいと思います。

もう質問するところがありませんから、これでやめさせていただきます。これで終わります。

〔23番「関係なかことば言うぎいかん」〕

関係あろうもん、市民のためやけん。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

以上で17番吉原議員の質問を終了させていただきます。

先ほどの吉原議員の質問ですけど、私、市長のほうには答弁は、これはいいと、答弁しなくていいとちょっと申しましたけれども、と申しますのは、一部事務組合や第三セクターは当該団体ではありませんから、一般的にはその事務は質問の対象になりません。分担金の支出の有無等については質問できます。

〔市長「そうです」〕

一部事務組合が多数設けられていますと、質問との関係が問題になります。質問は当該団体の事務を対象とします。一部事務組合は当該団体とは別法人であり、それには独自の議会が設けられていますので、その議会でチェック機能を果たすことになっています。そのため、一部事務組合を構成する団体の議会からも議員が選出されています。ということでございます。そういったことで、原則として認められませんということが議会運営の実際に盛り込んでありますので、そこら付近議員にも今後御理解をいただきたいと。（発言する者あり）